

第13回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、

作文や絵にくわしくかいてみよう

伊達 佐重

だて すけしげ
1932年三笠市生まれ
学芸大学札幌分校修了
三笠市立教育研究所所員
空知教育研修センター講師

はじめに

夏休みの終わり間際、子ども達が熱心に観察記録をまとめている様子はどうか。鉛筆で下書きをした紙の上をマジックペンでなぞっている子。昆虫の細密画に観察中の動きや感じたままの文をつけ加えている子。植物乾燥標本を手許の図鑑で細部まで確かめている子。――色々な子ども達の姿を思い浮かべることができる。一応出来あがった作品に、自分なりの達成感を味わいながら記名をするのであろう。

だが、作品をより良くするためには、ここで手直しが必要なのである。夏休みの終日とコンクールの締切り日を二週間もずらしてあるのは、そのためである。適切な助言をしてくれる人（担任教師や父母など）がいるかどうかが問題なのである。

審査員

佐藤 謙（北海道自然保護協会会長）

坂本 雅彦（北海道新聞野生生物基金理事・事務局長）

伊達 佐重（北海道自然保護協会 常務理事）

福地 郁子（同 常務理事）

江部 靖雄（同 常務理事）

俵 浩三（同 理事）

三澤 英一（同 理事）

在田 一則（同 理事）

堀 繁久（北海道開拓記念館学芸員）

入賞者

金賞

佐藤 晃輔（江別市立江別小一年）

しぜんの中のカマキリ

銀賞

渡部 友絵（札幌市立真駒内緑小三年）

百万年前の化石

松田 猛（教育大附属釧路小六年）

釧路管内で僕が観察したハンミョウ

銅賞

増子 直樹（恵庭市立和光小二年）

身のまわりの生きもの

小出 斎（江別市立野幌小三年）

身近な昆虫図鑑

山口 彩紀（札幌市立真駒内緑小三年）

こん虫採集

中崎 蒼太（旭川市立東町小四年）

エゾカタビロオサムシの観察

三橋 朋也（札幌市立和光小四年）

オクラのかんさつ

松永 滉平（帯広市立帯広小六年）

地下に住む小さな生物

佳作

市呂 新（江別市立野幌小一年）

カプトムシのせいたい

能藤万里子（遠軽町立遠軽南小一年）

あさがおさいたよ

五十嵐ゆい（札幌市立前田北小一年）

あさがおのかんさつ

齊藤 由紀（札幌市立真駒内緑小一年）

磁石でくつつくもの

栄田 悠麻（鶴居村立鶴居小一年）

ホタルのかんさつ

村岡 終有（別海町立別海中央小一年）

あさがおの観察

高山 のあ（北見市立北小二年）

なかよし いきもの

本田 脩陽(苫前町立苫前小二年)

かぶと虫

伊藤 裕輝(函館市立八幡小二年)

ミニトマトの観察

瀧澤 結菜(教育大附属札幌小三年)

カブト虫のさなぎのひみつ

山本 心(札幌市立琴似中央小三年)

セミの様子

小原 大樹(鷹栖町立北野小三年)

オサラツペ川の石

細野 賢(鶴居村立鶴居小三年)

クモのすの大発見

松永 渉(帯広市立帯広小四年)

見つけようプランクトン

佐々木 望(札幌市立真駒内緑小四年)

カエル新聞

山本高太郎(札幌市立真駒内緑小四年)

サンショウウオ

磯田雄一朗(室蘭市立白鳥台小四年)

アゲハチョウの観察日記

梅田 優作(東神楽町立志比内小五年)

夏休みの自然観察二〇〇六

中村 宥河(札幌市立南白石小六年)

絶滅種タカハシホタテの観察

浦山 悟実(苫小牧市立北星小六年)

ジャガイモのふしぎ

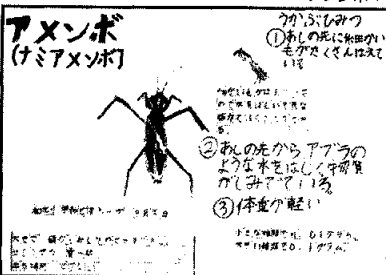
○学 校 賞

札幌市立真駒内緑小学校

森町立森小学校

札幌市立前田北小学校

第13回 夏休み自然観察記録コンクール作品募集



募集テーマ 身のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。

応募資格 道内に在住する小学生。

応募規定 応募の例として①作文だけ ②作文と絵 ③絵だけのいずれか。画材、用紙、大きさは自由。作文は表に、絵は裏にそれぞれ応募票を張る(題、氏名、学校名、学年、性別を明記してください)。

作文はページ番号、絵には順序を示す月・日や番号を入れる。
※本年度(2006年)の作品で未発表のもの。

応募先 〒060-0003
札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル
(社)北海道自然保護協会
☎011-251-5465
2006年9月16日(土)必着(郵送か持参)

入賞者発表 11月上旬までに北海道新聞紙上で入賞者を発表し、本人または在学する小学校へ名簿を発送します。

賞
金賞 1名(賞状、図書券10,000円)
銀賞 2名(" " 7,000円)
銅賞 6名(" " 5,000円)
佳作 20名(賞状、記念品)
学校賞 数校(賞状、記念品)

応募者の個人情報は受け付け、および主催者からの通知以外には使いません。

主催: (社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金

審査を終えて

よく見て いい発想で

審査委員長 伊達 佐重

佐藤晃輔君は、昨年見つけたカマキリを飼育しながら気づいた事を絵と文で表しました。カマキリが虫を捕まえるときの体の動きや、脱皮を始めてから終わりまでの説明が上手でした。渡部友絵さんは、化石掘りのキャンプに参加し、採取した実物標本に説明文を付けたのが成功しました。松田猛君は、二年続けてハンミョウの飼育に取り組み、蛹や成虫の様子を細かい図と分かりやすい文で表現しました。

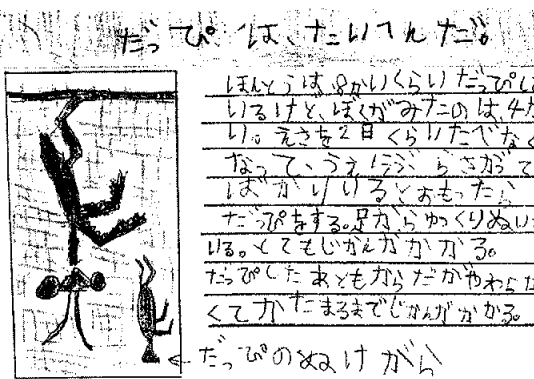
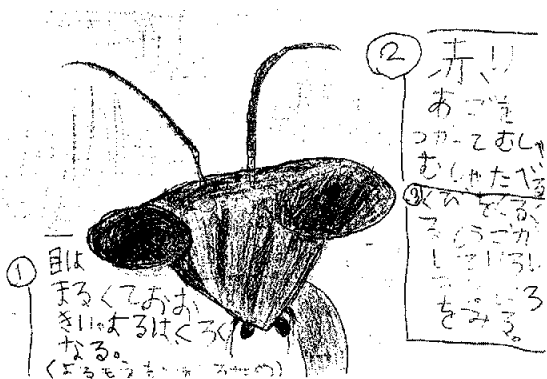
銅賞に触れます。松永滉平君は、顕微鏡で見た土の中の生き物の拡大図が明快でした。小出齋君は、名前調べに苦労しながら昆虫図鑑を作った根気強さに感心させられました。三橋朋也君は、野菜のオクラを栽培し、つぼみや花・種を図解し、地道な観察の積み重ねが実を結びました。中崎蒼太君は、六本足の昆虫が歩く時、どの足をどんな順序で動かすのかを調べました。ビデオの映像を低速回転にして、その疑問を解こうとした発想が立派でした。

今年の作品で「おやっ」と思ったものがありました。石ころに興味を持って取り組んだ人が初めて現れたからです。石は色や模様が単純すぎたり、逆に複雑すぎたりして描くのが難しいからです。これまで誰も手をつけなかったのもこんな理由だろうと思います。石ころに関連する「化石」も二

調べる題を決めるまでに十分な時間をかけて、今から来年のコンクールの計画を立ててほしいと願っています。

学年別応募点数

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
点数	73	102	18	17	8	5	223



金賞 佐藤晃輔 (江別市立江別小学校1年) 『しぜんの中のカマキリ』